

日本海ケーブルネットワーク株式会社

(以下「NCN という」)

2008年春期放送番組審議会議事録

- ・開催日時：2008年1月28日(月)13:30から15:30
- ・開催場所：鳥取市富安2丁目137番地、日本海新聞本社ビル6階会議室
- ・出席審議委員数：11名
山内 益夫
松下栄一郎
見生 義明
山中 英雄
山下 恭史
鈴木みどり
沖 時枝
長田 司
米田 功
山根 誠
西谷 義明 (順不同 敬称略)
- ・会長、副会長選出
会 長 山内 益夫
副会長 松下栄一郎(任期満了に伴う役員改選)
- ・議案
報告事項・・・2007年番組審議会以降の対応について
2008年4月の番組改編案について

審議事項・・・NCN制作番組に関する意見交換
(審議前に下記の番組VTRを視聴)
地域再発見
新春特別番組
今後の番組作りについて
- ・審議の概要
(以下 印・・・審議委員からの意見、 印・・・NCNからの回答)

< 地域再発見について >

自主番組放送は出来るだけ見るようにしているが、繰り返し放送なので、いつ見ていいのか分からない。もう少しターゲットを絞り、新聞のよく分かる場所に出したらどうか。視聴した「地域再発見」について、ライブラリーはまだ出来ていないと思うが、特に保存していくことも念頭に入れながらやっていったらどうか。

現在はテープ保存。将来はデータベースにアーカイブとして保存し、ビデオオンデマンド（VOD）システムを利用していつでも好きな時に見ていただけるようにしたい。また現在、ハイビジョン化を含めて制作システム全体の見直しを進めており、ライブラリー化も視野に入れて整備していきたい。

「地域再発見」は支持されるだけあってよくできているが、これを全国に発信していく可能性、戦略はあるのか。また、テレビショッピングは非常に広範囲で物を売ろうとするので地元のものはなかなか使用できないが、地域限定のNCNであれば、本当にこだわったものを商品として出していくことも必要ではないか。

日本ケーブル連盟と経産省とがタイアップして、地域のケーブル局が作って全国のケーブル局に流してはどうかという提案がある。私どもが作った番組をいろいろな媒体に乗せて発信していきたい。

新聞社とケーブルとの連携で非常に見やすくなったが、もっと売り出すにはキャスター的な方を育てていくのも必要ではないか。また、他のテレビ局ではできない話題性があるものの紹介なども対応できるのではないか。

新聞社の記事で紹介した話題に映像を加え、記者レポートとして放送している。活字メディアと映像メディアの特徴を活かし、より掘り下げたニュースや話題を発信していきたい。

たくさんチャンネルがあっても結局見るのは一つ。その間に9chが入る余地がなかなか難しい。地元の会合に出ているとNCNの番組が話題になることがあるが、いつどんな番組があるのかよく分からない。

日本海新聞に当日の放送予定を掲載しているが、もっとわかりやすくする必要もあるかもしれない。新聞社と相談しながら改善していきたい。また、新聞社の協力で2月から「地域再発見」の放送内容を記事で紹介する「NCNコーナー」の新設を予定している。今後も一人でも多くの方に番組を見てもらえるよう工夫していきたい。

「地域再発見」は、地域に密着した番組であり、このコンテンツは続けてもらいたい。2月には食に関するテーマが予定されているが、食と医療は関心が高い。地域に伝わる伝統の味、食材などを取り上げてもらいたい。地域づくりに取り組んでいる「人」も取り上げてほしい。私どもが期待するのは、地域に密着したメディアとして地域住民の活性化に貢献する番組。そういう意味で「地域再発見」が一番適した番組ではないかと思う。

< 新春特別番組について >

「ありがとう」という番組について同じような娘を持つ母として共感させられた。和やかなほのぼのとした企画だった。他のテレビは暗いニュースも多いので、NCNの放送で明るい話題、若い人のいろいろな取り組みを放送してもらいたい。心が癒されるよう話題、地域を紹介していただきたい。いろいろなイベント、地域の祭りなどは「楽しかった」、「良かった」という報道が主だが、イベント当日までの過程や練習経過なども取材してほしい。

< 今後の番組作りについて >

地域に密着しているテレビなので、定着した番組、視聴率が向上するような番組を放送してもらいたい。ケーブルテレビは、同じ番組を流しており無駄な時間が多いように感じられる。この解決はなかなか難しいとは思いますが、このことが9chに合わせることを避ける人もあると思う。できるだけ多くの方に登場していただき、一人でも多くの方に見ていただけるようにしていきたい。また、今後は地域の課題解決に役立つ番組づくりを心がけたい。

鳥取市は合併して広くなったが、有名なものがある地域だけではなく、行事の少ない地域も紹介してもらいたい。NCNの顔、キャスターは必要だが、そのサポートとして地域にいる「おばちゃん」、「おじちゃん」をサブキャスターとして登場してもらえば、NCNが再認識されるのではないか。一般の、地域の方からの取材を提供してもらってはどうか。

新聞社には通信部がいたるところにあるが、NCNにそういうものはないか。NCNでは現在、貸し出し用のビデオカメラを5台購入し、一般、関係団体等の方に貸し出している。ビデオ愛好グループなどに地域のイベントを撮ってもらい、番組で流す仕組みを考えたい。

情報収集は、地域のボランティアが必要ではないか。地域で活躍しておられる人、エリア内の公民館の協力、エリア内の行事風景などが定着すれば、視聴の機会も増えていくのではないか。また、ボランティアにお願いするならば、身近な問題も必要。「暮らしの質問箱」というような番組をつくり、行政問題、子供に対する問題、学校問題等いろいろな問題がある。こういう番組を作っていけばいいのではないか。